



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1930号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

第1993回例会

2013.9.5

司 会

三田明宏君

ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 栗原達治君

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 田中美之里さん(瀬川君のゲスト)

会長挨拶

会長 野田和秀君

皆様こんにちは。ゲストの田中美之里様ようこそ当クラブにおいでくださいました。ここから歓迎を申し上げます。後程卓話をさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

今年度、経費削減を図るべく当米山記念館にて3回の外部例会が予定されており、その第1回目が今日の例会となります。次回は10月の第3週にまた当記念館で米山月間にちなんだ卓話を予定しておりますが、今日は、今月が新世代月間でありますので、社会奉仕委員会の活動の一環として、本日の企画がなされたことと思います。後程瀬川委員長より説明があると思います。当クラブでは、長年にわたる苗栗RCとの中学生の交換研修事業により新世代奉仕の活動は十全なる意味において実行されているとの観点からか、ローターアクト、インターアクト、RYLA(Rotary Youth Leadership Awards),etc には言及されることもありません。私などはこれまでその活動内容に対してもあまりに知識も関心も乏しいといっても過言ではありません。過日行われた第2分区の会長・幹事会で耳にしたのですが、三島RCでは、若い人、特に高校生でしようか、彼らの「debate」力(自分の考えを主張しながら討論を進めていく力)を養成する、そんな奉仕プログラムを検討されているようです。我がクラブも新世代奉仕として高校生以上の若者を対象に何か新たな一歩を踏み出すことができれば、未来の夢計画にも沿っていかるとともに、社会奉仕活動の更なる充実にも繋がっていくのでは、と考えます。今日の卓話がそうしたひとつのヒントになることを期待しながら、以上簡単ですが会長挨拶と致します。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	40/48	88.89%	43/48	89.58%
今回	42/48	87.50%	会員総数	54名

欠席者 石井(彰)君、石井(良)君、石川君、
遠藤(正)君、窪田君、渡辺君

ロータリー財団米山委員会

9月14日(土)14:00～ 米山梅吉記念館秋季例祭
講演:「世界遺産・富士山の歴史」
講師:井上輝夫様(前富士山資料館館長)

幹事報告

幹事 平出利之君

- ①8月11日(日)のMIRAフェアの収支報告 588円の利益となりました。
- ②8月12日(月)会長・幹事会開催
- ③9月8日(日)財団セミナー
野田会長・平野財団米山委員長参加
- ④会員増強維持委員会のアンケート結果を次週配布します。
- ⑤「ロータリーの友」の英語版の注文依頼がありました。
- ⑥ロータリー囲碁同好会全国大会開催の案内があります。
2013.11.2(土)

2013～2014年度
国際ロータリー会長
ロン D.バートン

ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

おめでとう

会員誕生日 大畑君、諏訪部(照)君
入会記念日 遠藤(真)君、黒田君
奥様誕生日 栗原君

スマイルボックス

- ◆ 梶山君、9月3日、一番下の娘に男の子の孫が誕生しました。3人の子供達が全員孫一人づつとなりました。
- ◆ 千葉君、今日は午前中に地鎮祭が2件ありました。朝の凄い雷雨から考えるとウソのように雨が上がり、無事終了できました。どなたか晴男に感謝感謝です。
- ◆ 千葉君、室伏さん、前田房江さん、ありがとうございました。
- ◆ Gテーブル、8月29日、はなぶさ様にて行いました。会長幹事をお招きして楽しく行いました。残金スマイルします。
- ◆ 亥角君、お先に失礼します。

卓 話

パサディナ派遣研修を終えて

田中美之里さん



私は七月二十五日から八月十六日までの約三週間、MIRAの方々の協力のもと、三島と姉妹都市の関係を持つ、アメリカのパサディナ市に、派遣研修生として滞在した。英語をもっと上達させたい、自分の見聞を広げたい、との思いから参加したパサディナへの研修は、来年社会人としてのスタートを切る私に、多くのことを教え、たくさんのかげがえのない思い出を残してくれた。

滞在中特に印象的だったのが、日本の文化に誇りを持ち、様々な活動やイベントを通して日本の文化継承に

取り組む日系アメリカ人の人々の姿だった。ロサンゼルスに位置するLittle Tokyoを中心に開催されるObon festival やNisei weekでは、太鼓の演奏や盆踊りを始め、日本の伝統文化が広く親しまれていた。日系4世5世にもなると、日本語を流暢に話せる人は多くない。日本人と同じ容姿をしていても、彼らはアメリカの社会に生きるアメリカ人なのである。しかし、そんな彼らが日本を慕い、琴や太鼓に励む姿は、今の日本人以上に、どこか「日本人らしく」さえ感じた。日本人でありながら、今まで体験程度でしかそれらに携わってこなかった私にとって、見習うべきところがたくさんあるように感じた。

また、英語教育という面からも、考えさせられる点がたくさんあった。パサディナ市は三島以外にも多くの姉妹都市を持っている。私たちは滞在中、その中でもドイツとフィンランドの交換留学生と会うことができた。そして、自分より年下にも関わらず、ネイティブ並みに流暢に英語を話すことができる彼らに衝撃を受けた。どうしてそんなに英語が上手に話せるのかと聞いてみたところ、幼いころから学校で勉強しており、ほとんどの人は英語を普通にしゃべれるとのことだった。私達も中学生の時から英語を勉強しているし、その期間は決して短くない。大学受験期には、相当の時間を英語の勉強に費やしている。しかし、自分の周りでも、英語を流暢に話すことができるのは帰国子女などのごく一部で、逆に英語を苦手とする人は少なくない。おそらく、文法を重視する日本の英語教育の在り方に問題があるのではないかと感じた。この疑問は、Pasadena City CollegeにてESL(English Second Language)の授業を受けた際にも感じた。ESLは留学生を対象とした授業で、三日間の講義は文法についての内容だったのだが、講義内容は高校の時に習うものと大差なく、大学受験期にみっちり勉強している私達にとっては当たり前なことだった。しかし、他の学生たちは、英語を流暢に交わることができるにもかかわらず、文法の問題には苦戦している。その一方で、私たちは問題の解答はわかるものの、先生や学生たちとの英語の会話にはうまく入ることができない。英語を話せるようになるためには、今までとは異なる勉強法が必要だということを実感した。

今回の三週間の滞在中、少しは英語に慣れてきたものの、ネイティブとスムーズに話せるようになるには程遠く、うまく伝えることができないもどかしさを何度も感じた。新しくできた友人たちとより多くの話をするためにも、今まで以上に一生懸命に英語の勉強に打ち込みたいと思った。また、多くの若者と話す中で、漫画やアニメを中心に、日本に多くの注目が集まっている事を実感した。今後は、日本の良さを自分なりにもう一度再確認し、多くの人々に日本を訪れてもらうためにも、自らが海外の人々に日本の良さを発信していけたらと思う。この滞在中、多くの出会いと経験を積むことができた。このプログラムに参加できたこと、そして、私たちの滞在中をサポートしてくれたすべての方々に感謝します。

(週報担当:遠藤真道)